# 社会学

佐々木隆介
高倉嗣昌
松田光一
久冨善之
共著

学術図書出版社

# 社　会　学

佐々木隆介
高倉嗣昌
松田光一
久冨善之
共著

学術図書出版社

## 執 筆 分 担

佐々木隆介

第1章，第2章，第3章，

第8章 第2節・第3節，第9章 第2節

高倉嗣昌

第6章，第10章

松田光一

第4章，第7章，第9章 第1節

久冨善之

第5章，第8章 第1節

検 印 省 略

1982年 4月　第1版 第1刷 印刷
1982年 4月　第1版 第1刷 発行

社 会 学

定価 1800 円

著　者　佐々木 隆 介
　　高 倉 嗣 昌
　　松 田 光 一
　　久 冨 善 之
発行者　発 田 寿々子
印刷者　太 田 久 夫

発行所 株式会社 学術図書出版社
東京都文京区本郷5丁目4の6
電 (811) 0889　振替東京1-28454

三和印刷㈱ 印刷
3036-10053-1015

# はしがき

社会学に関するテキストはこれまで多数発行されているが，本書ではとくに現実に密着した問題を社会学の課題としてとらえ，これを明らかにしてゆこうとする立場をとった．

記述はできるだけ平易を旨とし，事例や調査の結果などをとり入れ，具体的な内容にするよう配慮したつもりである．

また最近注目されつつある分野，たとえば婦人と職業，生涯教育，保健社会学や現代社会のとらえ方にも触れるよう努めた．

一般の大学のほか，女子短大，専修学校等にも大いに利用していただければ幸いである．

また本書の完成のために多くの文献を参考にさせていただいたことに謝意を表したい．

なお今後さらに内容を改めて，より良いものにしてゆきたいと考えている．

1982年4月

執筆者一同

# もくじ


## 第1章 社会学の意義

## 第2章 個人と社会

第1節 個人と社会 …… 4
第2節 パーソナリティ …… 6
第3節 社会的性格 …… 7

## 第3章 社会集団

第1節 集団の要件 …… 10
第2節 未組織集団 …… 11
第3節 組織集団 …… 12
第4節 集団の構造とソシオメトリー …… 14

## 第4章 リーダーシップ

第1節 リーダーシップとは何か …… 17
第2節 リーダーシップの把え方の系譜 …… 19
第3節 リーダーシップの機能 …… 22
第4節 P機能とM機能によるリーダーシップ論 …… 24

## 第5章 家族

第1節 日本のイエ制度の形成・展開・衰退 …… 27
第2節 戦後日本の家族の変化 …… 32
第3節 核家族時代の諸側面 …… 44


此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第4節　現代家族の課題 …… 59

第6章　地域社会

第1節　社会学における地域社会の意味…… 60
第2節　地域社会における都市と農村…… 62
第3節　農業・農村問題…… 70
第4節　都市問題 …… 82
第5節　新しいコミュニティの意義と役割…… 92

第7章　産業と社会

第1節　職業と社会 …… 96
第2節　経営組織と職場集団…… 101
第3節　婦人労働の実態とその問題点…… 109
第4節　日本人の職業観 …… 116

第8章　現代社会の諸相

第1節　現代社会をどうとらえるか…… 123
第2節　情報化社会とマス・コミュニケーション…… 133
第3節　社会と文化 …… 140

第9章　教育と社会

第1節　学歴社会 …… 145
第2節　生涯教育 …… 161

第10章　保健社会学

第1節　保健社会学の意味と領域…… 172
第2節　保健社会学の内容…… 174

索　引

# 第1章　社会学の意義

「社会」という文字はわが国古来のものではなく，明治8年（1875）1月14日の東京日日（ニチニチ）新聞の論説において，福地源一郎（桜痴）が，ソサイチー（society）とふり仮名をつけて，はじめて用いたと伝えられている．なお，東洋，西洋，合衆国，共和国，個人，会社，保険，銀行，哲学，主義，演説などということばも明治時代に外来文化との接触にさいしてつくられたり，漢語の中から用いられたものであるといわれる．（紀田順一郎）このように「社会」ということばが今日使われているような意味で用いられるにいたったのは，明治に入ってからのことなので，わが国の場合，社会に対する観念が稀薄で，いわば社会意識不在の社会であるとの指摘もなされるゆえんである．（今日出海）

社会学の歴史をひもどくと，それはフランスのオーギュスト・コント（Auguste Comte<1798—1857>）に始まるといわれる．かれは，ラテン語の socius（社会）とギリシャ語の logos（学問）とを結びつけて，sociologie（ソシオロジー）<仏>ということばを作ったといわれるが，これはわが国では明治6年（1873）西周（ニシアマネ）によって，「人間学」として紹介された．なお，コントには「実証哲学講義」（6巻1830—1842）という有名な著作がある．かれは，社会有機体説をとり，社会学に諸科学の帝王としての位置を与え，実証精神の確立をつよく主張したことで知られている．

ところで現今の社会学であるが，それは他の社会諸科学にくらべて，とらえにくく，あいまいであるとの評がある．しかし，次のように考えることができるであろう．社会学（sociology）<英>とは「人間の社会的共同生活を研究するひとつの社会科学」である．人間の社会的共同生活には，いろいろな側面がある．それは，家族，地域社会，学校，会社，団体，国家，民族などにわたってみることができ，次第に範囲がひろげられてゆく．そして，社会学の課題は人間の社会的共同生活の改善向上にあると考えられている．

また社会学の対象となるものは第一に社会関係ないしは社会過程であり，第二に文化であると把握できる．ここで社会過程とは，社会関係が時間の経過とともに変化・発展してゆく動態的な過程のことであり，文化とは人間の生活様式のことを指す．

だから，社会学の内容は，人間のパーソナリティ・社会集団・文化という3つの側面から構成されると論ぜられるのである．

次に，人間とその文化に関する代表的諸科学を示して，社会学の位置づけを明らかにしようと試みた，ブラウン (F. J. Brown) の図表を示しておこう．(図1-1) (F. J. Brown　Sociology with application to nursing and health education 1957 p. 4)

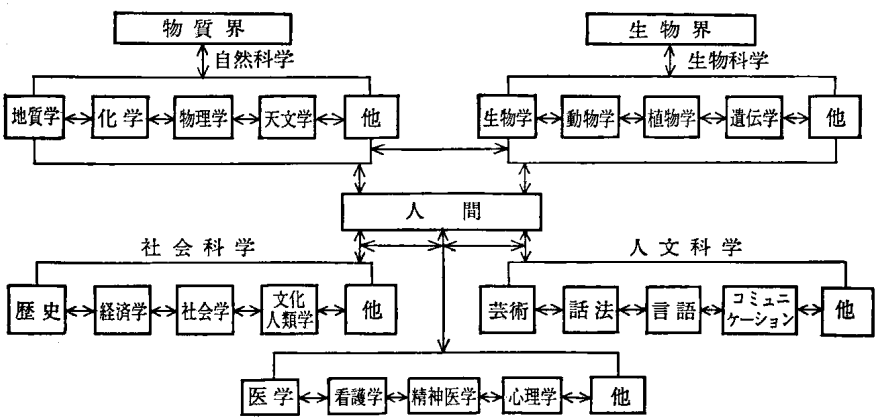


図 1-1　人間とその文化に関する研究

社会学の体系をみると，理論社会学とこれに素材を提供する社会調査と，さらに応用面をカバーする分野とに一応分けることができる．応用社会学はその領域が種々に分かれ，家族・地域・産業・教育・マス・コミュニケーション，文化などの内容を包含する．

社会学はつねに現実と密着して学ばれねばならないことが要請されるが，尾高邦雄は現代社会学の主要傾向として，① 国際化，② 統合化，③ 多様化，④ 実用化，⑤ 精密化，⑥ 体系化の諸特徴を挙げ，さらに今日重要視されるテーマとして，社会的地位と社会階層，ホワイト・カラー，大衆社会と官僚制，

近代的産業組織における人間の疎外，スモール・グループ，民主的指導と集団の士気，社会的緊張，社会的移動と社会変動など多方面にわたって列挙している．

以下，本書では個人と社会の問題から出発し，社会集団，集団におけるリーダーシップなど基本的問題について述べた後，この基礎の上に，家族，地域社会・産業社会について論及し，次いで現代社会の諸相として，そのとらえ方，情報化社会とマス・コミュニケーション，社会と文化などについて述べ，教育と社会の問題，さらに保健社会学におよぶという構成をとっている．

**参 考 文 献**

福武直・浜島朗編「社会学」（有斐閣双書）1965年
日本社会学会編集委員会編「現代社会学入門」有斐閣，1962年
中本博通・山手茂「高看基礎講座　社会学」メヂカルフレンド社，1968年
尾高邦雄「現代の社会学」（岩波全書）1958年
清水幾太郎「オーギュスト・コント―社会学とは何か―」（岩波新書）1979年

# 第2章　個人と社会

## 第1節　個人と社会

人間は社会的動物であるといわれるが，人間の営なむ社会生活は，互いの行為の交換によって成立すると考えられる．そして人間同志の間の相互作用のつみかさねが行われる結果，社会関係が生ずることになる．社会関係はまた集団との関係においてみなければならない．今日，人間関係ということばがしばしば用いられるが，われわれの生活は人間関係から成り立っているといってよい．問題を2人の間の関係にしぼってみる時，興味深いのは，ハイダー（F. Heider）のバランス理論である．これは均衡理論，調和理論とも呼ばれている．ハイダーは対人関係の認知において，調和している状態と不調和な状態があるものとし，人が不調和な状態にある時は，調和の状態に向かおうとする内部的な力が起こるという仮説をたてた．それは POX モデルとして示されるが図2-1のようになる．

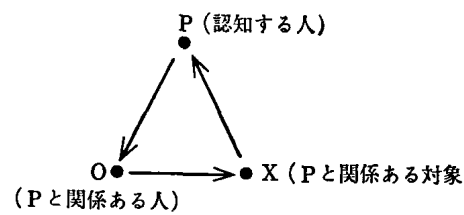


図 2-1

そして POX 間の関係で，バランス状態にあるものとインバランス状態にあるものとが生ずるとする．（図2-2）

図2-2において＋（プラス）が奇数であれば，バランス状態にあるのであり，－（マイナス）が奇数であればインバランス状態にあると考えるのである．このことを次の問題にあてはめて考えてみよう．

・「図2-3はハイダーの POX モデルの一例である．この図が表現してい

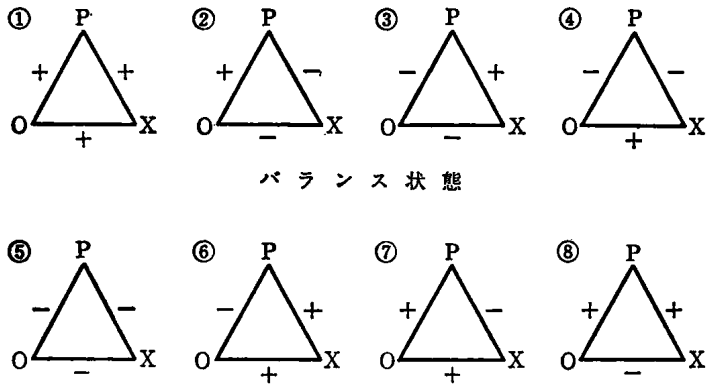


図 2-2　ハイダーのバランス理論

る場面の具体例として，もっとも適当なものを1つえらびなさい.」（「管理栄養士国家試験問題集」より）

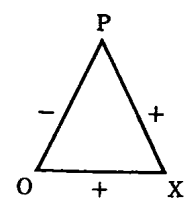


図 2-3

（1）　私は西部劇が嫌いなのに私の愛人は西部劇が大好きで困る.

（2）　私も彼も西部劇が好きなので趣味も一致して2人はよく気も合う.

（3）　私が軽蔑している彼も私と同じように西部劇ファンだと聞いてがっくりした.

（4）　私は西部劇ファンだが，あの男は西部劇はつまらないといった．あんなくだらない男に西部劇の良さがわかるはずがない.

（5）　私は西部劇ファンだが，私の愛する彼は西部劇の良さがわからないというのにがっかりした.

この場合（3）が正解ということになる.

ゲゼルやシングによって伝えられたインドの「狼に育てられた子」の話は有名であるが，それは人間は社会の中で，望ましい対人関係をもつことによって，

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

はじめて人間らしい人間になりうること（人間形成）を示唆している．

このことについて，ドイツの教育学者ナトルプ（P. Natorp）は次のように述べている．

Der Mensch wird zum Menschen allein durch die menschliche Gemeinschaft.

（人間は，ただ人間的な社会を通してのみ，人間となる．）

だから，個人は社会によって作られるが，他方個人が社会を作るという側面があることをみのがしてはならない．個人と社会の関係は，「個人が社会の子であり，且つ親でもある」という見方をすることが大切なゆえんである．

## 第2節　パーソナリティ

社会における個人の問題を検討するに当たり，まず人間のパーソナリティ（personality）について考えてみよう．「人間はインディビュディアル（individual 個体）として生まれ，パーソナリティとして成長する」といわれている．

ここでパーソナリティ（個性）を人間の欲求との関連において明らかにしてみることにしよう．

人間の欲求には生理的欲求と社会的欲求とがある．あるいは，有機的欲求と人格的欲求，一次的欲求と二次的欲求等に分類されている．

タマス（W. I. Thomas）とズナニエツキイ（F. W. Znaniecki）は欲求を4つに分類する．それは，① 安全を求める願望，② 感情的反応を求める願望，③ 社会的認知を求める願望，④ 新しい経験を求める願望のようになる．

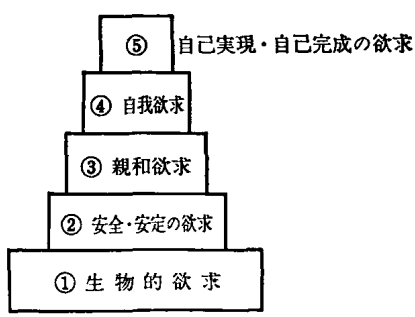


図 2-4　欲求の分類（マズロー）

またマズロー（A. Maslow）

は，欲求を図2-4のように5つに分け，それは，① の生物的欲求から，② 安全・安定の欲求，③ 親和欲求，④ 自我欲求，⑤ 自己実現・自己完成の欲求へと上昇するものであるが，④ および ⑤ に属する要求がどのくらいつよく且つ質がすぐれているかによって，人間のレベルが決定するとしている．

上にみられるように，人間は種々な欲求をもっているが，欲求を満足させる仕方と欲求不満（frustration）や葛藤（conflict）を処理する仕方について，それぞれ個人的な特徴があり，これを個人の性格と呼ぶ．

なお葛藤とは，カズラや藤がもつれからむことから，もつれ，いざこざ，もんちゃく，争議などを意味し（広辞苑），さらに，「相反する欲求が同時に存在して，心理的に板ばさみになった状態」を指すが，ニューカム（T. M. Newcomb）は葛藤を4つの型に分類する．すなわち，① 魅力感（Appeal）対魅力感，② 脅威感（Threat）対脅威感，③ 脅威感と魅力感の複合体，④ 脅威感と魅力感の複合体が2つ以上重複してあらわれる場合としている．

欲求の満足や欲求不満，葛藤の処理のために人は知能や技能を働かせるが，この働かせ方にも個人的な特徴があるので，これを能力と呼ぶ．

そして感情や情動のつよさ，現わし方にも個人的特徴があるので，これを気質と呼ぶ．以上の諸点をふまえて，パーソナリティとは人の性格，能力，気質という3つの面が結びあい，まとまって成立したものと考えられている（南博らによる）．人はそれぞれ独自なパーソナリティをもつが，それは本人の努力によって習得されねばならぬ点をもつことが重要であると，指摘されている．

## 第3節　社会的性格

いろいろなパーソナリティをもつ人々によって集団や文化が形成されるわけであるが，個人にパーソナリティがあるように，社会や集団の成員に共通してみられるパーソナリティ上の特性を社会的性格（social character）と称するのである．

フロム（E. Fromm）はこれを，「一定の文化に属する成員の大部分が共有する性核構造の中核」であると定義した．

現代において，社会的性格に関する種々の研究があるが，フロムは産業が高度に発達し，技術が進歩した現代の社会的性格として，「消費人」を提唱した．

またリースマン（D. Riesman）の説も有名である．かれはその著「孤独な群衆」(The Lonely Crowd) の中で，社会構造に対応する社会的性格の型として，「伝統志向型」(tradition-directed type)，「内部志向型」(inner-directed type)，「外部（他人）志向型」(other-directed type) の3つを示した．伝統志向型は伝統社会，農業社会に顕著にみられる型で，個人の行動の基準が祖先，両親などによって用意されているような社会である．内部志向型は産業革命以後に出現した工業化の時代に対応するもので，行動の基準が自己の良心や信念にあるとされ，「羅針盤」型とのニック・ネームがつけられている．これに対して，外部（他人）志向型は現代社会に顕著にみられるもので，行動の基準は外なるものにあり，他人やマス・メディアや世論などが該当する．いわば追随型とも称すべきもので，「方向探知機」型とも呼ばれる．かつて，リースマンが来日した際，「ローマの休日」という映画が上映されていたが，かれは日本の若い女性が競ってオードリイ・ヘップバーンのヘアスタイルや服装を模倣するのをみて，どうしてかの女たちはヒロインの心情を考えてみようとしないのかとの感想を洩らしていたことが印象的である．（リースマン「日本日記」）

また都市人の社会的性格として，リーマー（S. Riemer）は5つの型を示している．それは，① ステレオ型（stereotype），② 標準型（standardization），③ 環節化型（segmentalization），④ 自動化型（automatization），⑤ 世界主義型（cosmopolitanization）となる．① は個性喪失の状況，② はナンバー化，③ は生活行動の脈絡なき，めまぐるしさ，④ はオートメ化とそれにともなうドライな傾向，⑤ は地域社会への関心の無さを示したものといえよう．以上の諸点をリーマーはアーバン・パーソナリティ（urban personality）の特徴としてとらえている．

わが国の場合についてみると，かつて野尻重雄は日本農村の社会的性格として，① 静まれる社会，② 鎖された社会，③ 因襲的な社会，④ 家優先の社会と抑えたことがあるが，福武・塚本も「日本農民の社会的性格」（1954年）に

おいて，日本農民の性格を，「保守的傾向がつよく，しかも，その環境の次元によって意見や態度をかなり異にする矛盾的性格をもつもの」と結論している．

最近，モラトリアム人間ということばがクローズ・アップされるに至ったが，モラトリアム（moratorium）とは元来，支払延期，猶予期間などの意味を有し，転じて当事者意識不在の人間が目立ってきたことにおよんでいる．小此木啓吾はこのようなモラトリアム人間心理がひとつの社会的性格になるに至ったと論じている．そしてその要因を次のように分析している．（1979. 1. 18「北海道新聞」）

① 生産者，労働者意識よりも消費者，お客様意識をよりよいものとみなす社会心理．

② 高学歴化により大多数の人々がモラトリアム心理を長期間体験．

③ 高齢化にともない，いつになっても「これが本当の自分」という実感をもちにくい人生コースの中で生きねばならぬこと．

④ 女性の自我意識が一方において高まりながら，他方依然として女性の社会的地位が確立しないこと．

⑤ 人権思想と社会福祉の思想が普及した結果，消費者的，お客様的階層の人々もまた同等の発言権をもつにいたったこと．

⑥ 上記の社会心理的傾向をマスコミが終始肯定的に評価すること．

また，これに関連して，昭和55年版「青少年白書」は現代高校生には「いつまでも子供でいたいとするもの」が多いという傾向を指摘している．

このように社会的性格は近年興味ある社会学上の課題になっている．

# 第3章　社会集団

## 第1節　集団の要件

集団の分析は社会学の中心的テーマであるとされている．そして集団は次のように大別される．

集　団 ┌ 組織集団 ┌ 基礎集団
　　└ 未組織集団　└ 機能集団

集団には狭義の集団と広義の集団とがあり，前者は組織集団を指し，後者は組織集団，未組織集団の両者を含んでいる．したがって，厳密な意味での集団とは組織集団のことである．狭義の集団が成立するための要件として，一般に次の諸点が挙げられている．① 成員の間に共通の目標・関心があること．② 成員相互間にコミュニケーションがあること．③ 地位と役割の分化が認められること．④ 統一的なわれら感情（we-feeling）があること．⑤ 集団規範の存在すること．これに対して，未組織集団は一定の目標や組織を持たない単なる人間の集合体であるとされている．

集団の要件について，若干説明を加えたい．③ に示した地位（status）とは，ある人が個々の集団の内部で，成員またはその集団に対して占めている位置のことであり，それは役割（role）によって裏づけられている．すなわち，家族内で父親という地位を占めれば，父親としての役割が期待され，ある集団の内部でリーダーとしての地位を占めれば，リーダーとしての役割が期待されるという具合である．役割の役は業に通じ，割は分に通ずるから，役割とは集団内部における分業の意味を有する．

⑤ に記した集団規範（group norm）とは，「集団が形成され，存続する限り

において，成員の間に成立する態度や行動の標準」のことであり，それは，「集団の成員に共通するフレーム・オブ・レファレンス(frame of reference 準拠枠)」であるとも表現できる．集団規範は明文化された規則であることもあり，不文律の慣行であることもある．「朱に交われば赤くなる」ということばに示されるように，集団の成員はその圧力に屈して，集団規範に合致する行動をとる傾向があるといわれる．(同調行動 conformity)

## 第2節　未組織集団

次に未組織集団について考えてみよう．これには群衆，公衆，大衆，階級，階層などがある．群衆 (crowd) は一定の目的のために，一定の場所に，一時的に集まった人間の集合体（例　火事場の弥次馬）で，直接接触 (shoulder-to-shoulder) と弱い結合とがその特徴である．ル・ボン (G. Le Bon) は群衆の感情的，非合理的で無責任になりやすい傾向を「群衆心理」と呼んでいる．これに対して会衆 (audience) は，一定の目的のために，一定の場所に，定められた時に集まった人々で，講演会・音楽会の聴衆，映画・スポーツの観客が該当する．かれらは参加している間は秩序ある行動をとるが，行事が終われば散ってしまう．乱衆 (mob) は，群衆のうち，無秩序な行動や反社会的行動に走るものを指す．ブラウン (R. W. Brown) はこれを，① 攻撃的乱衆，② 逃走的乱衆，③ 利得的乱衆，④ 表出的乱衆に分つ．② の逃走的乱衆はパニック (panic) とも称し，1938年米国で火星人の来襲を主題とした H. G. ウェルズ原作のラジオ・ドラマが全米にまきおこした騒動がその例に挙げられるが，最近では「SOS タイタニック」，「大地震」，「タワーリング・インフェルノ」など，パニックを扱う映画が目立っている．

公衆 (public) という概念は今世紀の初頭，フランスのタルド (G. Tarde) によって提唱されたもので，コミュニケーションのメディア中とくに新聞によって媒介され，身体的には分離，つまり空間的には分散しているが，心理的には結びついており，その意識や態度を共通にしているとみなされる人々である．かれらは合理的に思考し，判断し，行動する．そしてこのような公衆の意見の

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com